第三章　目的稅
第四章　補則
地方稅法

第一章　總則

第一節　通則

地方團體地方稅條例

第一條 本法ニ於テ地方團體トハ府縣及市町村ヲ、地方稅トハ府縣稅及市町村稅ヲ謂フ

本法ニ於テ條例トハ府縣條例及市町村條例ヲ謂フ

本法中府縣ニ關スル規定ハ東京都及北海道地方費ニ之ヲ準用ス（昭和十八年法律第八十號改正）（同年法律第八十九號改正）

前項ノ場合ニ於テハ府縣稅、府縣知事、府縣吏員、府縣參事會又ハ府縣條例トアルハ夫々東京都稅若ハ北海道地方稅、東京都長官若ハ北海道廳長官、東京都吏員若ハ北海道地方費吏員、東京都參事會若ハ北海道參事會又ハ東京都條例若ハ北海道條例トス（同上）（同上）

本法中市町村ニ關スル規定ヲ東京都又ハ北海道ノ市町村ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事トアルハ東京都長官又ハ北海道廳長官トス（同上）（同上）

府縣稅市町村稅

第二條 府縣稅トシテ課スルコトヲ得ベキモノ左ノ如シ

一　普通稅
　國稅附加稅
　獨立稅
二　目的稅

市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモノ左ノ如シ

一　普通稅

國稅附加稅
府縣稅附加稅
獨立稅
二　目的稅

條例事項

第三條 地方團體ニ於テ地方稅及其ノ賦課徵收ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルハ條例ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二節　賦課

納稅義務者

第四條 地方團體內ニ住所、居所、家屋敷、事務所又ハ營業所ヲ有スル者ハ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

地方團體內ニ住所、居所、家屋敷、事務所又ハ營業所ヲ有セズト雖モ地方團體內ニ於テ土地、家屋又ハ物件ヲ所有シ、使用シ又ハ占有スル者ハ其ノ土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シ課スル地方稅ヲ、地方團體內ニ於テ一定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ行爲ニ對シ課スル地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

納稅義務ノ承繼者

第五條 法人合併シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ニ賦課セラルベキ地方稅ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ淸算法人解散シタル場合ニ於テ其ノ法人ニ賦課セラルベキ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

人ハ殘餘財產ノ價額ヲ限度トシテ連帶シテ其ノ法人ニ賦課セラルベキ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

相續開始アリタル場合ニ於テ相續人又ハ相續財團ハ相續開始前ノ事實ニ付被相續人ニ賦課セラルベキ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ但シ國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ノ價額ヲ限度トシテ其ノ義務ヲ負ヒ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ因リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人モ亦其ノ義務ヲ負フ

地方團體外ノ課稅禁止

第六條 納稅義務者ノ地方團體外ニ於テ所有シ、使用シ若ハ占有スル土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ地方團體外ニ於テ營業又ハ其ノ收入ニ對シ亦同ジ

稅務官署

第七條 數府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ關係府縣ニ於テ賦課スル營業稅附加稅（營業稅割ヲ含ム）

ノ營業稅ノ分別

ノ課稅標準タルベキ本稅額ハ本稅ヲ決定シタル稅務官署ノ定ムル所ニ依ル
稅務官署ハ本稅ヲ決定シタルトキハ直ニ前項ノ規定ニ依リ本稅額ヲ定メ之ヲ關係府縣知事ニ通知スベシ
關係府縣知事ニ於テ第一項ノ規定ニ依リ稅務官署ノ定メタル本稅額ニ異議アルトキハ內務大臣及大藏大臣本稅額ヲ定ム
前項ノ異議ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ之ヲ申出ツベシ
內務大臣第三項ノ異議ノ申出ヲ受理シタルトキハ三月以內ニ之ヲ決定スベシ
〔地方稅法施行令〕　二　〔施規〕　二・四　〔內務大藏告示〕　五

府縣知事ノ營業稅ノ分別

第八條　同一府縣內又ハ數府縣內ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ關係市町村ニ於テ賦課スル營業稅附加稅（營業稅割ヲ含ム）ノ課稅標準タルベキ本稅額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル
一　關係市町村同一府縣內ニ在ルトキハ當該市町村ニ付府縣知事ノ定ムル額
二　關係市町村數府縣ニ亙ル場合ニ於テ一府縣內ノ關係市町村一ナルトキハ前條ノ規定ニ依リ定リタル當該府縣ノ本稅額
三　關係市町村數府縣ニ亙ル場合ニ於テ一府縣內ノ關係市町村二以上ナルトキハ前條ノ規定ニ依リ定リタル當該府縣ノ本稅額ニ基キ當該市町村ニ付府縣知事ノ定ムル額
前項ノ規定ニ依リ定リタル本稅額ハ府縣知事直ニ之ヲ關係市町村長ニ通知スベシ
關係市町村長ニ於テ第一項第一號又ハ第三號ノ規定ニ依リ府縣知事ノ定メタル本稅額ニ異議アルトキハ本稅額ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム
前條第四項及第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
〔地方稅法施行令〕　二　〔施規〕　三・五　〔內務大藏告示〕　五

鑛區稅、漁業稅ノ分別

第九條　鑛區又ハ砂鑛區ガ數府縣又ハ數市町村ニ亙ル場合ニ關係地方團體ニ於テ賦課スル鑛區稅附加稅ノ課稅標準タルベキ本稅額ハ鑛區又ハ砂鑛區ノ面積ニ依リ本稅ヲ按分シタルモノニ依ル漁場ガ數市町村ニ亙ル場合ニ關係市町村ニ於テ賦課スル漁業權稅附加稅ノ課稅標準タルベキ本稅額ハ漁場ノ面積ニ依リ本稅ヲ按分シタルモノニ依ル
〔施規〕　六

月割課稅

第十條　年稅又ハ期稅タル地方稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニハ其ノ發生シタル月ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ地方稅ヲ賦課ス
前項ノ地方稅ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ地方稅ヲ賦課ス
第一項ノ地方稅ノ賦課後其ノ課稅客體ノ承繼アリタル場合ニ於テハ前ノ納稅者ノ納稅ヲ以テ後ノ納稅義務者ノ納稅ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用セズ
命令ヲ以テ指定スル稅目ニ付テハ第二項ノ規定ニ拘ラズ賦課後納稅義務消滅スルモ既ニ交付シタル徵稅令書又ハ徵稅傳令書ニ記載シタル賦課額ハ之ヲ變更セズ
月稅タル地方稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニハ其ノ發生シタル月ノ翌月ヨリ地方稅ヲ賦課シ其ノ賦課期日後納稅義務ノ消滅シタル者ニハ其ノ消滅シタル月分ノ全額ヲ賦課ス
一ノ地方團體ニ於テ納稅義務消滅シ他ノ地方團體ニ於テ納稅義務發生シタルトキハ納稅義務ノ發生シタル地方團體ハ納稅義務ノ消滅シタル地方團體ニ於テ賦課シタル部分ニ付テハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ
〔施規〕　七

賦課率ノ屬スル年度

第十一條　國稅附加稅（地租割、家屋稅割及營業稅割ヲ含ム）ノ賦課率ハ本稅ノ屬スル年ノ四月一日ニ始ル年度ノ賦課率ニ依ル但シ法人ノ營業稅附加稅（營業稅割ヲ含ム）ノ賦課率ハ法人ノ事業年度終了ノ日又ハ合併若ハ解散ノ日ノ屬スル年度ノ賦課率ニ依ル
府縣稅附加稅（府縣稅獨立稅割及市町村稅獨立稅割ヲ含ム）ノ賦課率ハ本稅ノ屬スル年度ノ賦課率ニ依ル

非課稅

第十二條　左ニ揭ゲルモノニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ第一號、第三號及第四號ニ揭ゲル土地、家屋又ハ物件ヲ他ニ使用收益セシムル場合ニ於テ其ノ使用收益ヲ爲ス者ニ課スルハ此ノ限ニ在ラズ
地方稅　地方稅法

一　神社、寺院又ハ教會ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地又ハ構内地但シ有料ニテ使用スルモノヲ除ク
二　國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ事業又ハ行爲
三　國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共用ニ供スル家屋又ハ物件但シ有料ニテ使用スルモノヲ除ク
四　國有ノ土地、家屋又ハ物件
五　地租法第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除セラレタル土地但シ其ノ年度分ニ限ル

前項ニ掲グルモノヲ除クノ外地方稅ヲ課スルコトヲ得ザルモノハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

（地方稅法施行令）三

公益免除

第十三條　地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスルトキハ課稅ヲ爲サザルコトヲ得

均一賦課

地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ不均一ノ課稅ヲ爲スコトヲ得

一部賦課

第十四條　地方團體ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ地方團體ハ不均一ノ課稅ヲ爲シ又ハ其ノ一部ニ課稅ヲ爲スコトヲ得

第三節　徵收

第一款　普通徵收

市町村ノ府縣稅徵收

第十五條　市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ但シ第十七條第二項、第三十五條第一項又ハ第四十二條第一項ノ規定ニ依リ徵收スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

府縣ハ前項ノ規定ニ依ル徵收ノ費用ヲ補償スル爲徵收金額及徵稅傳令書數ニ應ジ府縣條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スベシ

前項ノ規定ニ依ル府縣條例ノ規定ハ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ

稅金納人義務ノ免除

第十六條　市町村遲クベカラザル事故ニ因リ既收ノ府縣稅ヲ失ヒタルトキハ府縣知事ハ其ノ由請ニ依リ稅金納入ノ義務ヲ免除スベシ

府縣知事前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三十日以内ニ前項ノ規定ニ依ル免除ヲ爲サザルトキハ市町村ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得（昭和十八年法律第八十號改正）

前項ノ規定ニ依ル訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケタル日又ハ之ヲ受ケズシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スベシ

内務大臣訴願ヲ受理シタルトキハ三月以内ニ之ヲ裁決スベシ

徵稅命令書徵稅令書ノ發付

第十七條　府縣稅ヲ賦課徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ハ市町村ニ對シ徵稅命令書ヲ發シ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ徵稅命令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅者ニ交付スベシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ハ納稅者ニ對シ直接ニ徵稅令書ヲ交付スルコトヲ得

第十八條　市町村稅ヲ賦課徵收セントスルトキハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ徵稅令書ヲ納稅者ニ交付スベシ

稅納義務ノ完了

第十九條　第十七條第一項ノ徵稅傳令書又ハ前條ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅者ハ其ノ稅金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

第十七條第二項ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅者ハ其ノ稅金ヲ府縣ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅者又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ムニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

異議申立

第二十條　府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

市町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ府縣知事又ハ市町村長ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣稅ニ付テハ行政裁判所ニ出訴シ市町村稅ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（昭和十八年法律第八十號改正）

第三項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（同上）

府縣制第百二十八條及第百二十八條ノ二ノ規定ハ前四項ノ場合ニ之ヲ準用ス（同上）

督促狀發付

第二十一條　府縣稅ノ徵稅令書若ハ徵稅傳令書又ハ市町村稅ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅者納期限迄ニ稅金ヲ完納セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ遲クトモ納期限後二十日目迄ニ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ニハ條例ヲ以テ定ムル期間ノ內ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スベシ

特別ノ事情アル地方團體ニ於テハ條例ヲ以テ第一項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコトヲ得

督促手數料

第二十二條　前條ノ督促狀ヲ發シタルトキハ手數料ヲ徵收スベシ

前項ノ手數料ノ額ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

府縣稅ニ關シ市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手數料ハ其ノ市町村ノ收入トス

滯納處分

第二十三條　第二十一條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者督促狀ノ指定期限迄ニ稅金及督促手數料ヲ完納セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ條例ヲ以テ定ムル期間內ニ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スベシ

前項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（昭和十八年法律第八十號改正）

市町村稅ニ關スル前項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（同上）

第一項ノ規定ニ依ル處分中差押物件ノ公賣ハ差押處分ノ確定ニ至ル迄之ヲ停止ス

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ其ノ地方團體ノ區域外ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

府縣制第三十八條、第百二十八條及第百二十八條ノ二ノ規定ハ第二項及第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

延滯金

第二十四條　督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額ノ一萬分ノ四以內ニ於テ條例ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一　徵稅令書又ハ徵稅傳令書一通ノ稅金額五圓未滿ナルトキ

二　納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ

三　納稅者ノ住所及居所ガ不明ナル爲又ハ帝國內ニ在ラザル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ

四　滯納ニ付酌量スベキ情狀アリト認ムルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ稅金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ハ之ヲ徵收セズ

時效

第二十五條　府縣ノ徵收金（府縣稅並ニ其ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費）ハ國ノ徵收金ニ、市町村ノ徵收金（市町村稅並ニ其ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費）ハ府縣ノ徵收金ニ次デ先取特權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル但シ附加稅タル地方稅ニシテ本稅ノ決定ニ因リ賦課シ得ルニ至ルモノノ時效ハ本稅決定ノ日ヨリ進行ス

第二十三條第二項及第三項並ニ府縣制第百二十八條及第百二十八條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

繰上徵收

第二十六條　納稅者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ既ニ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル地方稅ニ付テハ納期前ト雖モ納稅義務ノ確定シタル稅金ノ全額ヲ徵收スルコトヲ得

一　國稅、地方稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅若ハ地方稅ニ付滯納處分ヲ受クルトキ

（昭和十八年法律第五十一號改正）

二　强制執行ヲ受クルトキ
三　破產ノ宣言ヲ受ケタルトキ
四　相續人限定承認ヲ爲シタルトキ
五　競賣ノ開始アリタルトキ
六　法人解散シタルトキ
七　納稅者逃脫ヲ圖ルノ所爲アリト認ムルトキ

前項ノ規定ニ依ル徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

納稅延期

第二十七條　府縣知事又ハ市町村長ハ特別ノ事情アル場合又ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣參事會又ハ市町村會ノ議決ヲ經テ地方稅ヲ減免スルコトヲ得

減免

第二十八條　府縣知事又ハ市町村長ハ特別ノ事情アル場合又ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣參事會又ハ市町村會ノ議決ヲ經テ地方稅ヲ減免スルコトヲ得

徵收金ノ連帶納付

第二十九條　法人合併シタル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費アルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人之ヲ納付スル義務ヲ負フ

法人解散シタル場合ニ於テ其ノ法人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費アルトキハ清算人ハ殘餘財產ノ價額ヲ限度トシテ連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

シテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ清算人ハ殘餘財產ノ價額ヲ限度トシテ連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

相續開始アリタル場合ニ於テ相續開始前ノ事實ニ付被相續人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費アルトキハ相續人又ハ相續財團之ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ノ價額ヲ限度トシテ其ノ義務ヲ負ヒ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ因リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人モ亦其ノ義務ヲ負フ

第三十條　共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生ジタル物件又ハ共同行爲ニ對スル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

公賣及競賣以外ノ原因ニ因リ鑛業權ノ移轉アリタル場合ニ於テ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費アルトキハ新鑛業權者ハ舊鑛業權者ト連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

科目充當

第三十一條　同一年度ノ地方稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スベキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得

納稅管理人

第三十二條　納稅義務者納稅地ニ住所、居所、事務所及營業所ヲ有セザルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ府縣稅ニ付テハ府縣知事ニ、市町村稅ニ付テハ市町村長ニ之ヲ申告スベシ

其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同ジ

書類ノ送達

第三十三條　徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所、居所、事務所又ハ營業所ニ送達ス名宛人ガ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納稅管理人アルトキハ徵稅令書、徵稅傳令書及督促狀ニ限リ其ノ住所、居所、事務所又ハ營業所ニ送達ス

公示送達

第三十四條　書類ノ送達ヲ受クベキ者ガ其ノ住所、居所、事務所若ハ營業所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ者ノ住所、居所、事務所及營業所ガ不明ナルトキ若ハ帝國內ニ在ラザルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル公告ハ地方團體ノ掲示場ニ之ヲ爲スベシ

第二款　特別徵收

特別徵收

第三十五條　地方團體ハ內務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方稅ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收義務者（以下特別徵收義務者ト稱ス）ハ地方團體ニ對シ其ノ徵收スベキ地方稅ヲ納入スルノ義務ヲ負フ

第一項ノ地方稅ノ徵收ニ付テハ第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

（內務大藏告示）二

税金相當額ノ還付

第三十六條　特別徴收義務者其ノ徴收スベキ地方税ヲ正當ノ事由ニ因リ徴收スルコト能ハザリシトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ特別徴收義務者ノ申請ニ依リ之ニ相當スル既納ノ金額ヲ還付スベシ

府縣知事又ハ市町村長前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三十日以内ニ前項ノ規定ニ依ル還付ヲ爲サザルトキハ特別徴收義務者ハ府縣税ニ付テハ内務大臣ニ訴願シ市町村税ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得（昭和十八年法律第八十號改正）

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長ヨリモ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得（同上）

第十六條第三項及第四項竝ニ府縣制第百二十八條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

特別徴收義務者ノ拂込

第三十七條　第三十五條第一項ノ規定ニ依リ地方税ヲ徴收セシムル場合ニ於テハ納税者ハ其ノ税金ヲ特別徴收義務者ニ拂込ムニ依リテ納税ノ義務ヲ了ス

特別徴收義務者ノ拂込ミ

特別徴收義務者ノ其ノ徴收スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ府縣税ニ付テハ府縣ニ、市町村税ニ付テハ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ税金ノ徴收及納入ノ義務ヲ了ス

特別徴收義務者ノ納入義務免除

第三十八條　特別徴收義務者ハ其ノ徴收スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ條例ヲ以テ定ムル期日迄ニ府縣税ニ付テハ府縣ニ、市町村税ニ付テハ市町村ニ納入スベシ

特別徴收義務者ニ對スル督促狀ノ發付

第三十九條　特別徴收義務者其ノ徴收スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ條例ヲ以テ定ムル期日迄ニ納入セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スベシ

特別徴收義務者ノ申請

第四十條　特別徴收義務者避クベカラザル事故ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ其ノ申請ニ依リ税金納入ノ義務ヲ免除スベシ

府縣知事又ハ市町村長前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三十日以内ニ前項ノ規定ニ依ル免除ヲ爲サザルトキハ特別徴收義務者ハ府縣税ニ付テハ内務大臣ニ訴願シ市町村税ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得（昭和十八年法律第八十號改正）

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長ヨリモ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得（同上）

第十六條第三項及第四項竝ニ府縣制第百二十八條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條　第五條、第十五條第二項及第三項、第十九條第四項、第二十二條第一項及第二項、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條、第三十條第一項竝ニ第三十一條ノ規定ハ第三十五條第一項ノ規定ニ依リ地方税ヲ徴收セシムル場合ノ納入金ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第十五條第三項中内務大臣トアルハ市町村條例ノ規定ニ付テハ府縣知事トス

證紙ニ依ル地方税ノ徴收

第四十二條　地方團體ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方税ニ付テハ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ラズ其ノ地方團體ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ地方税ヲ拂込マシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方團體ハ證憑書類其ノ他ノモノニ證紙ヲ貼用セシメ又ハ證紙金額ニ相當スル現金ノ納付ヲ受ケ納税濟印ノ押捺ヲ爲シ證紙ノ貼用ニ代ヘシムルコトヲ得

證紙ヲ貼用スルトキハ證紙ヲ貼用シタルモノノ紙面ト證紙ノ彩紋トニカケテ當該地方團體ノ印章又ハ特別徴收義務者ノ印章若ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スベシ

（内務大藏告示）三

徴收嘱託

第四十三條　本法ニ依リ地方税、督促手數料、延滯金若ハ滯納處分費ヲ納付スベキ者又ハ其ノ者ノ財産ガ當該地方團體外ニ在ルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ本人又ハ財産所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徴收ヲ嘱託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル徴收金ノ徴收ハ嘱託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ニ於ケル徴收ノ例ニ依ル

第一項ノ規定ニ依リ徴收ノ嘱託ヲ爲シタル場合ニ於テハ嘱託ニ係ル事務及送金ニ要スル費用ハ嘱託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ負擔トシ嘱託ニ係ル事務ニ伴フ督促手數料及滯納處分費ハ嘱託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ收入トス

第二章　普通稅

第一節　府縣稅

第一款　附加稅

第四十四條　國稅附加稅トシテ課スルコトヲ得ベキ府縣稅左ノ如シ

府縣ノ國稅附加稅ノ種類

地租附加稅
家屋稅附加稅
營業稅附加稅
鑛區稅附加稅

地租附加稅ノ課稅ニ付テハ地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第四十五條　地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ賦課率ハ同一府縣ニ於テハ之ヲ同一ト爲スベシ但シ負擔ノ均衡上特ニ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

同賦課率ノ同一

第四十六條　地租附加稅、家屋稅附加稅又ハ營業稅附加稅ノ賦課率ガ本稅ノ百分ノ百ヲ超ユルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率ガ本稅ノ百分ノ百二十ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

同課率ノ許可

一　災害應急費、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲借入レタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
二　災害應急又ハ復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ
三　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

（地方稅法施行令）五

同鑛區稅附加稅

第四十七條　鑛區附稅加稅ノ賦課率ハ本稅ノ百分ノ十ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二款　獨立稅

第四十八條　獨立稅トシテ課スルコトヲ得ベキ府縣稅左ノ如シ

同獨立稅ノ種類

段別稅
船舶稅
自動車稅
電柱稅
不動產取得稅
漁業權稅
狩獵者稅
藝妓稅

段別稅

第四十九條　段別稅ハ減租年期地及免租年期地（減租年期地又ハ免租年期地ニ類スル土地ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ對シ評定賃貸價格ヲ標準トシテ其ノ所有者（質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者）ニ之ヲ課ス但シ減租年期地又ハ免租年期地ト爲リタル年ノ四月一日ニ始ル年度及其ノ翌年度ヨリ二年度間ハ之ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ評定賃貸價格ハ類地ノ賃貸價格ニ比準シ當該土地ノ品位及情況ニ應ジ府縣條例ノ定ムル所ニ依リ府縣知事之ヲ定ムベシ

段別稅ノ賦課率ハ地租ノ稅率ニ其ノ府縣ニ於ケル地租附加稅ノ賦課率ヲ乘ジタルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年度分ノ段別稅ハ之ヲ免除スベシ

段別稅ヲ課スル府縣ニ於テハ減租年期地ニ對シテハ地租附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ第一項但書ノ規定ニ依リ段別稅ヲ課セザル期間地租附加稅ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラズ

段別稅ハ耕地整理法第十三條ノ三ノ規定ニ依ル耕地整理減租年期地ニ對シテハ之ヲ課スルコトヲ得ズ但シ開墾

減租年期、地目變換減租年期若ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル場合又ハ耕地整理法第十六條ノ三ノ規定、其ノ準用規定若ハ昭和六年法律第二十九號附則第十五條ノ規定ニ依リ賃貸價格ガ定メラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶稅

第五十條　船舶稅ハ總噸數二十噸以上ノ船舶ニ對シ主タル定繫場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

主タル定繫場不明ナルトキハ定繫場所在ノ府縣中船籍港ノ存スル府縣ニ主タル定繫場アルモノト看做ス

前二項ノ規定ノ適用ニ付關係府縣知事意見ヲ異ニスルトキハ其ノ申出ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

自動車稅

第五十一條　自動車稅ハ自動車ニ對シ主タル定置場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

電柱稅

第五十二條　電柱稅ハ電柱ニ對シ其ノ所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

不動產取得稅

第五十三條　不動產取得稅ハ不動產ノ取得ニ對シ其ノ不動產所在ノ府縣ニ於テ其ノ取得者ニ之ヲ課ス

左ニ揭グル不動產ノ取得ニ對シテハ不動產取得稅ヲ課スルコトヲ得ズ

一　家督相續又ハ遺產相續ニ因ル不動產ノ取得

二、法人ノ合併ニ因ル不動產ノ取得

三　保險業法ニ依リ會社ガ其ノ保險契約全部ノ移轉契約ニ依リテ不動產ヲ移轉スル場合ニ於ケル不動產ノ取得

四　委託者ヨリ受託者ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於ケル不動產ノ取得

一五　委託者ノミガ信託財產ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於ケル不動產ノ取得

六　信託ノ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動產ノ取得

漁業權稅

第五十四條　漁業權稅ハ漁業權（入漁權ヲ除ク）又ハ其ノ取得ニ對シ其ノ漁場所在ノ府縣ニ於テ其ノ漁業權者又ハ漁業權取得者ニ之ヲ課ス

前條第二項第一號及第二號ノ規定ハ前項ノ漁業權ノ取得ニ對スル漁業權稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

狩獵者稅

〔施規〕六

藝妓稅

第五十五條　狩獵者稅ハ狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ對シ其ノ住所地所在ノ府縣ニ於テ之ヲ課ス

第五十六條　藝妓稅ハ藝妓其ノ他之ニ類スル者ニ對シ其ノ住所地所在ノ府縣ニ於テ之ヲ課ス

第二節　市町村稅

第一款　附加稅

市町村ノ國稅附加稅ノ種類

第五十七條　國稅附加稅トシテ課スルコトヲ得ベキ市町村稅左ノ如シ

地租附加稅
家屋稅附加稅
營業稅附加稅
鑛區稅附加稅

同府縣稅附加稅ノ種類

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租附加稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　府縣稅附加稅トシテ課スルコトヲ得ベキ市町村稅左ノ如シ

段別稅附加稅
船舶稅附加稅
自動車稅附加稅
電柱稅附加稅
不動產取得稅附加稅
漁業權稅附加稅
狩獵者稅附加稅
藝妓稅附加稅

同國稅附加稅賦課率ノ同一

第五十九條　地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ賦課率ハ同一市町村ニ於テハ之ヲ同一ト爲スベシ但シ負擔ノ均衡上特ニ必要アル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十條　府縣稅附加稅（段別稅附加稅ヲ除ク）ノ賦課率ハ同一市町村ニ於テハ之ヲ同一ト爲スベシ但シ負擔ノ

均衡上特ニ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

段別稅附加稅ノ賦課率ハ地租ノ稅率ニ其ノ市町村ニ於ケル地租附加稅ノ賦課率ヲ乘ジタルモノヲ當該府縣ニ於ケル段別稅ノ賦課率ヲ以テ除シテ得タルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

府縣稅附加稅賦課率ノ同一

第六十一條　地租附加稅、家屋稅附加稅又ハ營業稅附加稅ノ賦課率ガ本稅ノ百分ノ二百ヲ超ユルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率ガ本稅ノ百分ノ二百四十ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　國民學校營繕費、災害應急費、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲借入レタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ（昭和十六年法律第十二號改正）

二、災害應急又ハ復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

（地方稅施行令）四・五（施規）八

同賦課率ノ許可

第六十二條　鐵區稅附加稅ノ賦課率ハ本稅ノ百分ノ十ヲ超ユルコトヲ得ズ

鐵區稅附加稅

第二款　獨立稅

第六十三條　獨立稅トシテ課スルコトヲ得ベキ市町村稅左ノ如シ

市町村獨立稅ノ種類

市町村民稅

舟稅

自轉車稅

荷車稅

金庫稅

扇風機稅

屠畜稅

犬稅

府縣ニ於テ第四十八條ニ掲グル獨立稅ヲ課セザルモノアルトキハ市町村ハ之ヲ市町村ノ獨立稅トシテ課スルコトヲ得

市町村ハ前二項ニ掲グルモノノ外別ニ稅目ヲ起シテ獨立稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ獨立稅ノ新設及變更ニ付テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

（地方稅施行令）六

市町村民稅ノ納稅義務者

第六十四條　市町村民稅ハ左ニ掲グル者ニ對シ之ヲ課ス但シ貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一　市町村內ニ一戶ヲ構フル個人又ハ一戶ヲ構ヘザルモ獨立ノ生計ヲ營ム個人

二　前號ニ該當セザルモ市町村內ニ事務所、營業所又ハ家屋敷ヲ有スル個人

三　市町村內ニ事務所又ハ營業所ヲ有スル法人

前項第三號ノ法人ニ付テハ其ノ事務所又ハ營業所每ニ市町村民稅ヲ課ス

同賦課期日

第六十五條　市町村民稅ノ賦課期日ハ十月一日トス

前項ニ定ムルモノノ外市町村民稅ノ課稅方法ハ市町村條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第六條及第十條ノ規定ハ市町村民稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

同賦課ノ制限

第六十六條　市町村民稅ノ納稅義務者一人ニ對スル賦課額ハ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

人口七十萬以上ノ市　二千圓

其ノ他ノ市　千五百圓

町村　千圓

市町村民稅ノ賦課總額ハ左ノ金額ニ第六十四條ニ定ムル納稅義務者數ヲ乘ジタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

人口七十萬以上ノ市　十二圓

其ノ他ノ市　九圓

町村　六圓

前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ第六十四條第一項第三號ノ法人ハ其ノ事務所又ハ營業所毎ニ獨立ノ納稅義務者ト看做ス

〔施規〕八

舟稅

第六十七條　舟稅ハ總噸數二十噸未滿ノ舟ニ對シ主タル定繫所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

主タル定繫所不明ナルトキハ定繫所所在ノ市町村中船籍港ノ存スル市町村ニ主タル定繫所アルモノト看做ス

前二項ノ規定ノ適用ニ付關係市町村長意見ヲ異ニスルトキハ其ノ申出ニ依リ府縣知事（關係市町村數府縣ニ亘ル場合ニ於テハ內務大臣）之ヲ定ム

自轉車稅

第六十八條　自轉車稅ハ自轉車ニ對シ其ノ定置所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

荷車稅

第六十九條　荷車稅ハ荷車ニ對シ其ノ定置所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

金庫稅

第七十條　金庫稅ハ金庫ニ對シ其ノ所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

扇風機稅

第七十一條　扇風機稅ハ扇風機ニ對シ其ノ所在ノ市町村ニ於テ其ノ使用者ニ之ヲ課ス

屠畜稅

第七十二條　屠畜稅ハ屠畜ニ對シ其ノ屠殺場所在ノ市町村ニ於テ其ノ獸畜ノ所有者ニ之ヲ課ス

犬稅

第七十三條　犬稅ハ犬ニ對シ其ノ飼育所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十四條　第四十九條乃至第五十六條ノ規定ハ第六十三條第二項ノ規定ニ依ル獨立稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第五十條第三項中內務大臣トアルハ府縣知事（關係市町村數府縣ニ亘ル場合ニ於テハ內務大臣）トス

第三章　目的稅

府縣ノ都市計畫稅

第七十五條　府縣ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

地租割　地租ノ百分ノ二十五以內

家屋稅割　家屋稅ノ百分ノ二十五以內

營業稅割　營業稅ノ百分ノ二十五以內

府縣稅獨立稅割　府縣稅獨立稅ノ百分ノ二十五以內

市町村ノ都市計畫稅

第七十六條　市町村ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

地租割　地租ノ百分ノ六十八以內

家屋稅割　家屋稅ノ百分ノ六十八以內

營業稅割　營業稅ノ百分ノ六十八以內

府縣稅獨立稅割　府縣稅獨立稅ノ百分ノ三十四以內

市町村稅獨立稅割　市町村稅獨立稅ノ百分ノ三十四以內

市町村民稅ニ對シテハ市町村稅獨立稅割ヲ課スルコトヲ得ズ

市町村ハ第一項ニ揭グルモノノ外別ニ稅目ヲ起シテ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ都市計畫稅ノ新設及變更ニ付テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四十四條第二項ノ規定ハ第一項ノ地租割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

水利稅

第七十七條　府縣ハ水利ニ關スル事業ニ要スル費用ニ充ツル爲該事業ニ因リ特ニ利益ヲ受クル土地ニ對シ左ノ水利稅ヲ課スルコトヲ得

地租割

段別割

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ課稅ニ、第四十九條第四項ノ規定ハ前項ノ段別割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

水利稅ノ賦課額（數年ヲ期シテ賦課スルトキハ其ノ總額）ハ當該土地ノ受益ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

水利地益

第七十八條　市町村ハ水利ニ關スル事業其ノ他土地ノ利益ト爲ルベキ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲該事業ニ因リ

稅

特ニ利益ヲ受クル土地ニ對シ左ノ水利地益稅ヲ課スルコトヲ得

地租割

段別割

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ課稅ニ、第四十九條第四項ノ規定ハ前項ノ段別割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

前條第三項ノ規定ハ水利地益稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

共同施設稅

第七十九條　市町村ハ共同作業場、共同倉庫、共同集荷場其ノ他之ニ類スル施設ニ要スル費用ニ充ツル爲該施設ニ因リ特ニ利益ヲ受クル者ニ對シ共同施設稅ヲ課スルコトヲ得

共同施設稅ノ新設及變更ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ

共同施設稅ノ賦課額（數年ヲ期シテ賦課スルトキハ其ノ總額）ハ當該納稅義務者ノ受益ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條及第六條ノ規定ハ共同施設稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

罰則

訴願

行政訴訟

第八十條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地方稅ヲ逋脫シタル者ニ對シテハ條例ヲ以テ其ノ逋脫シタル金額ノ五倍ニ相當スル金額（其ノ金額十圓未滿ナルトキハ十圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノノ外地方稅ノ賦課徵收ニ關シテハ條例ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

府縣稅ノ賦課徵收ニ關シ過料ヲ科セラレタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市町村稅ノ賦課徵收ニ關シ過料ヲ科セラレタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（昭和十八年法律第八十號改正）

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（同上）

第四章　補則

帳簿物件ノ檢査

第二十一條乃至第二十三條及第二十五條竝ニ府縣制第百二十八條及第百二十八條ノ二ノ規定ハ前五項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條　地方稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間事業經營者ニ關シテハ仍其ノ執務時間內家宅、事務所若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證明票ヲ携帶スベシ

町村組合

第八十二條　町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合會ハ之ヲ町村會、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合條例ハ之ヲ町村條例ト看做ス

第八十三條　本法又ハ他ノ法律ニ定ムルモノヲ除クノ外地方稅及其ノ賦課徵收ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣又ハ府縣知事ノ許可權

第八十四條　本法ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

本法ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ハ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

本法ニ依リ主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ輕易ナルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシメザルコトヲ得

（地方稅法施行令）六・七

更正許可

第八十五條　主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ主務大臣又ハ府縣知事ハ許可申請ノ趣旨ニ反セズト認ムル範圍內ニ於テ更生シテ許可ヲ與フルコトヲ得

東京都ノ國稅附加稅ノ課率

第八十五條ノ二　東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第四十六條ノ規定ノ準用ニ付テハ同條中百分ノ百トアルハ百分ノ三百、百分ノ百二十トアルハ百分ノ三百六十、災害應急費トアルハ國民學校營繕費、災害應急費トス（昭

ノ許可

同　續區稅附加稅

第八十五條ノ三　東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第四十七條ノ規定ノ準用ニ付テハ同上中百分ノ十トアルハ百分ノ二十トス（同上）

同　獨立稅ノ種類

第八十五條ノ四　東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第四十八條ニ揭グルモノノ外獨立稅トシテ左ノ東京都稅ヲ課スルコトヲ得

都民稅
舟稅
自轉車稅
荷車稅
金庫稅
扇風機稅
屠畜稅
犬稅

東京都ハ其ノ區ノ存スル區域ニ於テ前項ニ揭グルモノノ外別ニ稅目ヲ起シテ獨立稅ヲ課スルコトヲ得

同　獨立稅ノ賦課

前項ノ獨立稅ノ新設及變更ニ付テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ（同上）

第八十五條ノ五　第六十四條乃至第七十三條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依ル獨立稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ東京都ノ區ノ存スル區域ヲ以テ市ト看做ス（同上）

同　都市計畫稅

第八十五條ノ六　東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第七十五條第一項ノ規定ノ準用ニ付テハ同項中ノ百分ノ二十五トアルハ百分ノ九十三、百分ノ十三トアルハ百分ノ四十七（第八十五條ノ四ノ獨立稅ニ付テハ百分ノ三十四）トス（同上）

同

第八十五條ノ七　都民稅ニ對シテハ東京都稅獨立稅割ヲ課スルコトヲ得ズ

東京都ハ其ノ區ノ存スル區域ニ於テハ第七十五條第一項ニ揭グルモノノ外別ニ稅目ヲ起シテ都市計畫稅ヲ課スルコトヲ得

都市計畫稅ノ課稅禁止、許可

前項ノ都市計畫稅ノ新設及變更ニ付テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ（同上）

同　水利地益稅

第八十五條ノ八　東京都ハ區ノ存スル區域ニ於テハ水利地益稅ヲ課スルコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ水利地益稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス（同上）

同　共同施設稅

第八十五條ノ九　東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ共同施設稅ヲ課スルコトヲ得

第七十九條ノ規定ハ前項ノ共同施設稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス（同上）

東京都ニ於ケル地方稅

第八十五條ノ十　東京都ノ區ノ存スル區域ニ於ケル東京都稅及之ニ關聯ヲ有スル東京都內ノ市町村ノ市町村稅ニ關スル事項ニシテ本法ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得（同上）

島嶼ニ於ケル地方稅

第八十六條　島嶼ニ於ケル地方稅及其ノ賦課徵收ニ關シ本法ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

（地方稅法施行令）八

附則

經過年度ニ於ケル段別稅、佛堂ニ對スル地方稅ノ免除

第八十七條　本法ハ昭和十五年度分地方稅ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅附加稅及家屋稅割ニ關スル規定ハ昭和十七年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十六年度分迄ニ限リ段別稅及同附加稅ノ課稅ニ關シ本法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣ニ在リテハ內務大臣及大藏大臣、市町村ニ在リテハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

宗教團體法第三十五條第一項ノ佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地ニ對シテハ有料ニテ使用セシムルモノヲ除クノ外之ニ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

廢止ス

第八十八條　明治四十一年法律第三十七號及大正十五年法律第二十四號ハ昭和十四年度分限リ之ヲ廢止ス

家屋稅及同附加稅ニ關シテハ前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十六年度分迄ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

所得稅、營業收益稅附加稅及鑛產稅附加稅ニシテ昭和十五年四月一日以後ニ於テ本稅ノ決定セラルルモノノ賦課ニ付テハ第七條及第八條ノ例ニ依ル

〔地方稅法施行令〕 一二 〔施規〕 一二・一三

第九十條 昭和十四年法律第七十八號第一條第一項ノ規定ニ依リ讓與セラルル不動產ノ取得ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ不動產取得稅ヲ課スルコトヲ得ズ

寺院ニ無償讓與セラルル不動產取得稅免除

〔施規〕 一二

第九十一條 市制第百六十七條第六號又ハ町村制第百四十七條第六號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル特別稅ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ內務大臣及大藏大臣ノ指定スル稅目ニ限リ第六十三條第四項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル獨立稅ト看做ス

市町村稅ノ措置

〔內務大藏告示〕 四

第九十二條 都市計畫法第八條ヲ削除ス

舊都市計畫特別稅ノ措置

昭和十四年度分以前ノ都市計畫特別稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ規定ハ營業收益稅割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

都市計畫特別稅家屋稅ニ關シテハ昭和十六年度分迄ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

〔地方稅法施行令〕 一二

第九十三條 昭和十五年度及昭和十六年度分ノ家屋稅、家屋稅附加稅及都市計畫特別稅家屋稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

經過年度ニ於ケル家屋稅ノ措置

昭和十五年度及昭和十六年度分ノ家屋稅ノ課稅標準タルベキ家屋ノ賃貸價格ハ大正十五年法律第二十四號第十條ノ規定ニ依ル家屋ノ賃貸價格ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ於テ補整ヲ加ヘタルモノニ依ル家屋稅、家屋稅附加稅及都市計畫特別稅家屋稅ノ賦課ニ關シテハ前項ノ規定ニ依ル家屋ノ賃貸價格ノ補整ヲ理由トシテ異議ノ申立並ニ訴願及訴訟ノ提起ヲ爲スコトヲ得ズ

〔地方稅法施行令〕 一三・一四・一五 〔施規〕 八・一五

第九十四條 罹災救助基金法中左ノ通改正ス

罹災救助基金特別稅廢止

第四條 削除

第十五條ノ二中「且地租、營業收益稅及所得稅ノ附加稅ノ賦課ガ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ニ達シ」ヲ削ル

昭和十四年度分以前ノ同法第四條ノ規定ニ依ル附加稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

同前

第九十五條 昭和七年法律第三十三號附則第二項中「且地租、營業收益稅及所得稅ノ附加稅ノ賦課ガ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ニ達シ」ヲ削ル

第九十六條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔地方稅法施行令〕 一一 〔施規〕 一〇・一四

附 則（昭和十六年法律第十二號）

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

地方稅法第六十一條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ昭和十五年度以前ニ於テ小學校營繕費ニ充ツル爲借入レタル負債ハ之ヲ國民學校營繕費ニ充ツル爲借入レタル負債ト看做ス

附 則（昭和十八年法律第五十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年五月勅令第四百五十八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

附 則（昭和十八年法律第八十號）

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年五月勅令第四百四十二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

附 則（昭和十八年法律第八十九號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年五月勅令第五百三號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

附　則（昭和二十年法律第十七號）

本法ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ規定ハ昭和二十年度分ヨリ之ヲ適用ス

○地方分與税法（昭和十五年三月二十九日法律第六十一號）

改正　昭和一六年法第一二號（小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律）、同年法第三八號、同年法第八八號（酒税等ノ增徵等ニ關スル法律）、昭和一七年法第六一號、昭和一八年法第二號（遊興飲食税法中改正法律）、同年法第八九號（東京都制）、昭和一九年法第七號（所得税法外二十九法律中改正法律）、昭和二十年法第一七號（地方税法及地方分與税法中改正法律）

地方分與税法目次
第一章　總則
第二章　還付税
第三章　配付税
第一節　通則
第二節　道府縣配付税
第三節　市町村配付税
第一款　通則
第二款　大都市配付税
第三款　都市配付税
第四款　町村配付税
第四章　補則
地方分與税法
第一章　總則

地方分與税ノ構成

第一條　還付税及配付税ヲ以テ地方分與税トシ還付税ハ都道府縣ニ、配付税ハ都道府縣及市町村ニ對シテ之ヲ分與ス（昭和十八年法律第八十九號改正）

還付税及配付税ノ總額

第二條　地租、家屋税及營業税ノ徵收額ノ全部ヲ以テ還付税トス

所得税及法人税ノ徵收額ノ百分ノ十・〇六竝ニ入場税及遊興飲食税ノ徵收額ノ百分ノ十四・四〇ヲ以テ配付税トス（昭和十六年法律第八十八號改正）（昭和十七年法律第六十一號改正）（昭和十八年法律第二號改正）（昭和十九年法律第七號改正）（昭和二十年法律第十七號改正）

第二章　還付税

分與スベキ還付税ノ總額

第三條　毎年度分トシテ分與スベキ還付税ハ當該年度ニ於テ徵收スベキ地租、家屋税及營業税トス

地租、家屋税又ハ營業税ニ付或ル年度ニ於テ支出シタル拂戻金ハ當該年度ノ徵收税額ヨリ之ヲ控除ス

各道府縣ニ分與スベキ還付税營業税ノ分別

第四條　各都道府縣ニ分與スベキ還付税ハ其ノ區域内ニ於テ徵收スベキ地租、家屋税及營業税トス（昭和十八年法律第八十九號改正）

數都道府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ課スル營業税ニ付テハ前項ニ規定スル營業税ノ額ハ營業税ヲ決定シタル税務官署之ヲ定ム（同上）

税務官署ハ營業税ヲ決定シタルトキハ直ニ前項ノ規定ニ依リ營業税ノ額ヲ定メ之ヲ關係府縣知事（東京都長官及北海道廳長官ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ通知スベシ（同上）

關係府縣知事ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ税務官署ノ定メタル營業税ノ額ニ異議アルトキハ内務大臣及大藏大臣其ノ額ヲ定ム

前項ノ異議ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ申出ヅベシ

内務大臣及大藏大臣第四項ノ異議ノ申出ヲ受理シタルトキハ三月以内ニ之ヲ決定スベシ

第一項ニ規定スル地租、家屋税又ハ營業税ニ付支出シタル拂戻金ハ當該都道府縣分ノ徵收税額ヨリ之ヲ控除ス（同上）

還付税ノ交付

第五條　還付税ハ毎年度四回ニ分チテ之ヲ交付ス

第三章　配付税

第一節　通則

配付税分與額

第六條　毎年度分トシテ分與スベキ配付税ノ額ハ前前年度ニ於テ徴收シタル所得税及法人税ノ百分ノ十・〇六並ニ入場税及遊興飲食税ノ百分ノ十四・四〇トス（昭和十六年法律第八十八號改正）（昭和十七年法律第六十一號改正）（昭和十八年法律第二號改正）（昭和十九年法律第七號改正）（昭和二十年法律第十七號改正）

前項ノ規定ニ依リ分與スベキ配付税ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ百十ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ之ヲ當該年度ニ於テ分與スベキ額ヨリ減額ス

第一項ノ規定ニ依リ分與スベキ配付税ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ九十ニ不足スルトキハ其ノ不足額ハ之ヲ當該年度ニ於テ分與スベキ額ニ增額ス

配付税分與額ノ增

第七條　地方財政ノ情況上必要アルトキハ前條ノ規定ニ依リ分與スベキ配付税ノ額ニ左ノ各號ノ一ニ定ムル額ヲ增額スルコトヲ得

一　前條第二項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ百十ヲ超過スル額ノ全部又ハ一部

二　前條第三項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ニ不足スル額ノ全部又ハ一部

三　前條第一項ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ニ不足シ且其ノ百分ノ九十ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ不足額ノ全部又ハ一部

四　當該年度ニ於ケル配付税ノ收入見込額ガ前條第一項ノ額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ノ全部又ハ一部

配付税分與額ノ減額

第八條　地方財政ノ情況上必要アルトキハ第六條ノ規定ニ依リ分與スベキ配付税ノ額ヨリ左ノ各號ノ一ニ定ムル額ヲ減額スルコトヲ得

一　第六條第二項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ヲ超過スル額ノ全部又ハ一部

二　第六條第三項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ九十ニ不足スル額ノ全部又ハ一部

三　第六條第一項ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ヲ超過シ且其ノ百分ノ百十ニ不足スル場合ニ於テハ其ノ超過額ノ全部又ハ一部

四　當該年度ニ於ケル配付税ノ收入見込額ガ第六條第一項ノ額ニ不足スル場合ニ於テハ其ノ不足額ノ全部又ハ一部

借入金償還ニ因ル配付税分與額ノ減額

第九條　地方分與税分與金特別會計法第四條ノ規定ニ依ル借入金ノ元利償還上必要アルトキハ當該年度ニ於ケル配付税ノ分與額ヨリ其ノ所要額ヲ減額スルコトヲ得

配付税分與區分

第十條　配付税ハ左ノ區分ニ依リ道府縣及市町村ニ對シテ之ヲ分與ス（昭和十七年法律第六十一號改正）（昭和二十年法律第十七號改正）

一　道府縣配付税　　配付税總額ノ百分ノ六十三

二　市町村配付税　　配付税總額ノ百分ノ三十七

配付税分與額算定時期

第十一條　配付税ノ分與額ハ前年度初日ノ現在ニ依リ各道府縣及市町村ニ付之ヲ算定ス

前項ノ期日後ニ於テ道府縣又ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テハ當該道府縣又ハ市町村ニ對スル配付税ノ分與額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

配付税ノ交付

第十二條　配付税ハ毎年度四回ニ分チテ之ヲ交付ス

第二節　道府縣配付税

道府縣配付税ノ分與

第十三條　道府縣配付税ハ之ヲ第一種配付額及第二種配付額ニ分チ第一種配付額ハ道府縣ノ課税力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ道府縣ノ財政需要ヲ標準トシテ之ヲ分與ス

第一種配付額及第二種配付額

第十四條　第一種配付額及第二種配付額ハ夫々道府縣配付税總額ノ半額トス

第十五條　第一種配付額ハ單位税額ガ道府縣標準單位税額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ當該道府縣ノ人口ヲ乘ジタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

第一種配付額ノ分與標準

單位稅額ハ當該道府縣ノ還付稅額及國稅附加稅額ノ合算額ヨリ災害土木費負債額ノ七分ノ一ヲ控除シタル額ヲ當該道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額トス（昭和十七年法律第六十一號改正）

道府縣標準單位稅額ハ全道府縣ノ還付稅額及國稅附加稅額竝ニ道府縣配付稅額ノ合算額ヨリ全道府縣ノ災害土木費負債額ノ七分ノ一ヲ控除シタル額ヲ全道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額トス（同上）

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

北海道ニ付テハ北海道拓殖費ノ每年度支出額中ノ一定部分ヲ北海道ノ人口ヲ以テ除シタル額、沖繩縣ニ付テハ沖繩縣振興事業費ノ每年度支出額中ノ一定部分ヲ沖繩縣ノ人口ヲ以テ除シタル額ヲ第二項ノ額ニ加算シタル額ヲ以テ單位稅額トス

前項ノ支出額中ノ一定部分ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二種配付額ノ分與標準

第十六條　第二種配付額ハ當該道府縣ノ割增人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

割增人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス

一　六十萬（昭和二十年法律第十七號改正）

二　當該道府縣ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ其ノ全道府縣平均率ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該道府縣ノ人口ニ乘ジタル數ノ四倍（昭和十六年法律第十二號改正）

道府縣配付稅分與額ノ制限

第十七條　單位稅額ガ道府縣標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル道府縣ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セズ

前二條ノ規定ニ依ル道府縣配付稅ノ額ヲ當該道府縣ノ單位稅額ガ道府縣標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過額ニ當該道府縣ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

道府縣配付稅ヲ制限シタル額ノ再分與

第十八條　前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ前條ノ規定ニ該當セザル道府縣ニ對シテ第十六條ノ規定ニ準ジ之ヲ再分與ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ再分與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ殘額ヲ生ゼザルニ至ル迄前二項ノ例ニ依リ之ヲ再分與ス

第三節　市町村配付稅

第一款　通則

市町村配付稅ノ種類

第十九條　市町村配付稅ハ大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ三種トス

大都市配付稅ハ大都市ニ、都市配付稅ハ都市ニ、町村配付稅ハ町村ニ對シテ之ヲ分與ス

大都市トハ人口七十萬以上ノ市ヲ、都市トハ人口七十萬未滿ノ市ヲ謂フ

大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ各總額ノ合算額

第二十條　大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ各總額ハ左ノ各號ノ額ノ合算額トス

一　市町村配付稅總額ノ半額ヲ大都市、都市又ハ町村ノ平均單位稅額ヲ市町村標準單位稅額ヨリ控除シタル殘額ニ各總人口ヲ乘ジタル額ニ按分シタル額

二　市町村配付稅總額ノ半額ヲ大都市、都市及町村ノ各總割增人口ニ按分シタル額（昭和二十年法律第十七號改正）

前項第一號ノ大都市、都市又ハ町村ノ平均單位稅額ハ大都市、都市又ハ町村ノ國稅附加稅額ヲ夫々ノ總人口ヲ以テ除シタル額トス

第一項第一號ノ市町村標準單位稅額ハ全市町村ノ國稅附加稅額及市町村配付稅總額ノ合算額ヲ全市町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

第二款　大都市配付稅

大都市配付稅ノ分與標準

第二十一條　大都市配付稅ハ之ヲ第一種配付額及第二種配付額ニ分チ第一種配付額ハ大都市ノ課稅力ヲ標準トシテ之ヲ分與ス

第一種配付額及第二種配付額

第二十二條　第一種配付額及第二種配付額ハ夫々大都市配付稅總額ノ半額トス

第二十三條　第一種配付額ハ單位稅額ガ大都市標準單位稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ當該市ノ人口ヲ乘ジタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

第一種配付額ノ分與

單位稅額ハ當該市ノ國稅附加稅額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

大都市標準單位稅額ハ全大都市ノ國稅附加稅額及大都市配付稅總額ノ合算額ヲ全大都市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

第二種配付額ノ分與

第二十四條　第二種配付額ハ當該市ノ割增人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

割增人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス

一　六十萬（昭和二十年法律第十七號改正）

二　當該市ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該市ノ人口ニ乘ジタル數ノ十倍（昭和十六年法律第十二號改正）

大都市配付稅分與額ノ制限

第二十五條　單位稅額ガ大都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セズ

前二條ノ規定ニ依ル大都市配付稅ノ額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該市ノ單位稅額ノ合算額ガ大都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ニ當該市ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

大都市配付稅ノ制限シタル額ノ再分與

第二十六條　前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ前條ノ規定ニ該當セザル市ニ對シテ第二十四條ノ規定ニ準ジ之ヲ再分與ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ再分與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ殘額ヲ生ゼザルニ至ル迄前二項ノ例ニ依リ之ヲ再分與ス

第三款　都市配付稅

都市配付稅ノ分與標準

第二十七條　都市配付稅ハ之ヲ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ニ分チ第一種配付額ハ都市ノ課稅力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ都市ノ財政需要ヲ標準トシ第三種配付額ハ特別ノ事情アル都市ニ對シ其ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ノ分與

第二十八條　第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ夫々都市配付稅總額ノ百分ノ四十七・五、百分ノ四十七・五及百分ノ五トス、

第二十九條　第一種配付額ハ單位稅額ガ都市標準單位稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ當該市ノ人口ヲ乘ジタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位稅額ハ當該市ノ國稅附加稅額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

都市標準單位稅額ハ全都市ノ國稅附加稅額及都市配付稅總額ノ合算額ヲ全都市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

第二種配付額ノ分與

第三十條　第二種配付額ハ當該市ノ割增人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

割增人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス（昭和二十年法律第十七號改正）

一　三萬（同上）

二　當該市ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該市ノ人口ニ乘ジタル數ノ十倍（昭和十六年法律第十二號改正）

第三種配付額ノ分與

第三十一條　第三種配付額ノ分與方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條　單位稅額ガ都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セズ

第二十九條及第三十條ノ規定ニ依ル都市配付稅ノ額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該市ノ單位稅額ノ合算額ガ都市標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ニ當該市ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

都市配付稅ヲ制限シタル額ノ再分與

第三十三條　前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ之ヲ第三種配付額ニ加フ

第四款　町村配付稅

第三十四條　町村配付稅ハ之ヲ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ニ分チ第一種配付額ハ町村ノ課稅力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ町村ノ財政需要ヲ標準トシ、第三種配付額ハ特別ノ事情アル町村ニ對シ其ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

町村配付稅ノ分與標準

第三十五條　第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ夫々町村配付額ノ百分ノ四十七・五、百分ノ四十七・五及百分ノ五トス

第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ノ分與

第三十六條　第一種配付額ハ單位稅額ガ町村標準單位稅額ニ不足スル町村ニ對シテ其ノ不足額ニ當該町村ノ人口ヲ乘ジタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

第一種配付額ノ分與

單位稅額ハ當該町村ノ國稅附加稅額ヲ當該町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

第二種配付額ノ分與

町村標準單位稅額ハ全町村ノ國稅附加稅額及町村配付稅總額ノ合算額ヲ全町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

第三種配付額ノ分與

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業稅附加稅ノ合算額トス

第三十七條　第二種配付額ハ當該町村ノ割增人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

割增人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス（昭和二十年法律第十七號改正）

一　二千（同上）

二　當該町村ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該町村ノ人口ニ乘ジタル數ノ十倍（昭和十六年法律第十二號改正）

第三種配付額ノ分與方法

第三十八條　第三種配付額ノ分與方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

町村配付稅分與稅額ノ制限

第三十九條　單位稅額ガ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過額ニ當該町村ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配

第三十六條及第三十七條ノ規定ニ依ル町村配付稅ノ額ヲ當該町村ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該町村ノ單位稅額ノ合算額ガ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過額ニ當該町村ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

第四十條　前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ之ヲ第三種配付額ニ加フ

第四章　補則

第四十條ノ二　配付稅ノ分與ニ關シテハ東京都ハ其ノ全區域ニ付テハ之ヲ市ト看做ス（昭和十八年法律第八十九號追加）

準町村

第四十一條　本法ノ適用ニ付テハ町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキモノハ之ヲ町村ト看做ス

配付稅分與ニ月フル人口、還付稅額其他

伊豆七島及小笠原島ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　第十五條乃至第十七條、第十九條、第二十條、第二十三條乃至第二十五條、第二十九條、第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ人口、第十五條ノ還付稅額、第十五條、第二十條、第二十三條、第二十六條ノ國稅附加稅額、第十五條ノ道府縣配付稅總額、第二十條ノ市町村配付稅總額、第二十六條ノ都市配付稅總額、第三十六條ノ町村配付稅總額、第十五條ノ災害土木費負債額竝ニ第十六條、第二十四條、第三十條及第三十七條ノ國民學校兒童數ハ命令ノ定ムル所ニ依ル（昭和十六年法律第十二號改正）

地方分與稅委員會

第四十三條　地方分與稅ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付錯誤アリタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ後年度ニ於テ地方分與稅分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付加算又ハ控除ヲ行ヒ分與額ヲ算定ス

本法ニ規定ナキ地方分與稅ニ關シ必要事項

第四十四條　本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲地方分與稅委員會ヲ置ク

第四十五條　本法ニ定ムルモノノ外地方分與稅ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

地方稅　地方分與稅法

施行期日及經過規定

第四十六條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年度及昭和十六年度ニ限リ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ還付稅中ニハ家屋稅ヲ包含セズ

第二條乃至第四條ノ地租中ニハ昭和十四年分以前ノ地租ヲ包含セズ

第二條第二項及第六條第一項ノ所得稅中ニハ改正前ノ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ包含セズ

昭和十五年度乃至昭和二十年度ノ配付稅ノ額

第四十七條　昭和十五年度ニ於ケル配付稅ノ額ハ第二條第二項ノ規定ニ拘ラズ二億七千七百三十五萬五千六百二十圓トス

第二條第二項中百分ノ十・〇六トアルハ昭和十六年度ニ於テハ百分ノ十四・一七、昭和十七年度ニ於テハ百分ノ十三・四二、昭和十八年度ニ於テハ百分ノ十四・二四、昭和十九年度ニ於テハ百分ノ十・三〇、昭和二十年度ニ於テハ百分ノ十三・二一、昭和二十一年度ニ於テハ百分ノ十・一四、昭和二十二年度ニ於テハ百分ノ十・〇八トス（昭和十七年法律第六十一號改正）（昭和十八年法律第二號改正）（昭和十九年法律第七號改正）（昭和二十年法律第十七號改正）

第二條第二項中百分ノ十四・四〇トアルハ昭和十六年度ニ於テハ百分ノ二十九・三五、昭和十七年度ニ於テハ百分ノ二十一・四二、昭和十八年度ニ於テハ百分ノ十三・一一、昭和十九年度ニ於テハ百分ノ十・三二、昭和二十年度ニ於テハ百分ノ十四・五六、昭和二十一年度ニ於テハ百分ノ十七・九五トス（昭和十六年法律第八十八號追加）（昭和十七年法律第六十一號改正追加）（昭和十八年法律第二號改正）（昭和十九年法律第七號改正）（昭和二十年法律第十七號改正）

昭和十五年乃至昭和二十年度ノ分與スベキ配付稅ノ額

第四十八條　昭和十五年度及昭和十六年度分トシテ分與スベキ配付稅ノ額ハ第六條第一項ノ規定ニ拘ラズ夫々二億七千七百三十五萬五千六百二十圓及二億八千百十一萬四千五百二十七圓トス

第六條第一項中百分ノ十・〇六トアルハ昭和十七年度分ニ付テハ百分ノ二十二・三五、昭和十八年度分ニ付テハ百分ノ十九・四五、昭和十九年度分ニ付テハ百分ノ十三・六七、昭和二十年度分ニ付テハ百分ノ十六・二八、昭和二十一年度分ニ付テハ百分ノ十二・二二、昭和二十三年度分ニ付テハ百分ノ十・一四、昭和二十四年度分ニ付テハ百分ノ十・〇八トス（昭和十七年法律第六十一號改正）（昭和十八年法律第二號改正）（昭和十九年法律第七號改正）（昭和二十年法律第十七號改正）

第六條第一項中百分ノ十四・四〇トアルハ昭和十七年度分ニ付テハ百分ノ五十、昭和十八年度分ニ付テハ百分ノ三十一・六二、昭和十九年度分ニ付テハ百分ノ二十・二一、昭和二十年度分ニ付テハ百分ノ十三・七八、昭和二十一年度分ニ付テハ百分ノ十四・三〇、昭和二十二年度分ニ付テハ百分ノ十四・五六トス（昭和十六年法律第八十八號追加）（昭和十七年法律第六十一號改正）（昭和十八年法律第二號改正）（昭和十九年法律第七號改正）（昭和二十年法律第十七號改正）

第六條第二項及第三項、第七條第一號乃至第三號竝ニ第八條第一號乃至第三號ノ規定ハ昭和十五年度乃至昭和十七年度分ニ付テハ之ヲ適用セズ

昭和十五年乃至昭和十六年度ノ道府縣配付稅額及市町村配付稅額ノ區分

第四十九條　第十條第一號中百分ノ六十二トアルハ昭和十五年度分ニ付テハ百分ノ六十四トス（昭和十六年法律第三十八號改正）

第十條第二號中百分ノ三十八トアルハ昭和十五年度分ニ付テハ百分ノ三十六トス（同上）

昭和十五年度乃至昭和十九年度道府縣配付稅ノ分與標準及其ノ區分

第五十條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ道府縣配付稅ニハ第一種配付額及第二種配付額ノ外ニ地方稅收入ノ激變ヲ緩和スル爲第三種配付額ヲ設ク

昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ道府縣配付稅總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額トス

	第一種配付額	第二種配付額	第三種配付額
昭和十五年度	百分ノ三十五	百分ノ三十五	百分ノ三十
昭和十六年度	百分ノ三十七・五	百分ノ三十七・五	百分ノ二十五
昭和十七年度	百分ノ四十	百分ノ四十	百分ノ二十
昭和十八年度	百分ノ四十二・五	百分ノ四十二・五	百分ノ十五

昭和十九年度　百分ノ四十五　百分ノ四十五　百分ノ十

第五十一條　道府縣配付稅中第三種配付稅ハ新稅額ガ舊稅額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ分與ス

道府縣配付稅中第三種配付額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第五十二條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ第十七條第一項中第二種配付額トアルハ第二種配付額及第三種配付額トシ同條第二項中前二條トアルハ第十五條、第十六條及第五十一條第一項トス

第五十三條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ道府縣配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ命令ヲ以テ定ムル率ヲ乘ジタル額ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ道府縣配付稅ノ額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス（昭和十七年法律第六十一號改正）

第五十四條　前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ道府縣配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度　百分ノ百
昭和十六年度　百分ノ九十五
昭和十七年度　百分ノ九十
昭和十八年度　百分ノ八十五
昭和十九年度　百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第十六條ノ規定ニ準ジ全道府縣ニ對シテ之ヲ再分與ス

第五十五條　第五十一條及前二條ノ舊稅額ハ昭和十三年度ニ於ケル道府縣稅額ニ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ增加額ヲ加ヘ警察費連帶支辨金支出方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減ジタルモノトス但シ北海道ニ付テハ三十二萬六千圓、沖繩縣ニ付テハ二十萬圓ヲ之ニ加フ

第五十一條及前二條ノ新稅額ハ改正後ノ道府縣稅額及還付稅額ノ合算額トス

第一項ノ道府縣稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ增加額、警察費連帶支辨金ノ支出方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額並ニ前項ノ改正後ノ道府縣稅額及還付稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五十六條　昭和十七年度乃至昭和十九年度ニ限リ第二十條ノ規定ニ依リ算出シタル大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ各總額ト新稅ノ各總額トノ合算額ガ舊稅ノ各總額ニ命令ヲ以テ定ムル率ヲ乘ジタル額ヲ超過スルモノニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ總額ヨリ減額ス（昭和十七年法律第六十一號改正）

第五十七條　前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ各總額ト新稅ノ各總額トノ合算額ガ舊稅ノ各總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額ニ不足スルモノニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ大都市配付稅、都市配付稅又ハ町村配付稅ノ總額ニ增額ス

昭和十五年度　百分ノ百
昭和十六年度　百分ノ九十五
昭和十七年度　百分ノ九十
昭和十八年度　百分ノ八十五
昭和十九年度　百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ大都市、都市及町村ノ各總人口ニ按分シテ之ヲ大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ各總額ニ增額ス

第五十八條　前二條ノ舊稅ノ總額ハ昭和十三年度ニ於ケル市町村稅額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減ジタルモノトス

前二條ノ新稅ノ總額、前條第二項ノ總人口並ニ前項ノ市町村稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五十九條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ大都市配付稅ニハ第一種配付額及第二種配付額ノ外ニ地方稅收入ノ激變ヲ緩和スル爲第三種配付額ヲ設ク

昭和十五年乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ大都市配付稅總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額トス

	第一種配付額	第二種配付額	第三種配付額
昭和十五年度	百分ノ三十五	百分ノ三十五	百分ノ三十
昭和十六年度	百分ノ三十七・五	百分ノ三十七・五	百分ノ二十五
昭和十七年度	百分ノ四十	百分ノ四十	百分ノ二十
昭和十八年度	百分ノ四十二・五	百分ノ四十二・五	百分ノ十五
昭和十九年度	百分ノ四十五	百分ノ四十五	百分ノ十

第六十條　大都市配付稅中第三種配付額ハ新稅額ガ舊稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ分與ス

大都市配付稅中第三種配付額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第六十一條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ第二十五條第一項中第二種配付額トアルハ第二種配付額及第三種配付額トシ同條第二項中前二條トアルハ第二十三條、第二十四條及第六十條第一項トス

第六十二條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ大都市配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ命令ヲ以テ定ムル率ヲ乘ジタル額ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ大都市配付稅ノ額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス（昭和十七年法律第六十一號改正）

第六十三條　前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ大都市配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度	百分ノ百
昭和十六年度	百分ノ九十五
昭和十七年度	百分ノ九十
昭和十八年度	百分ノ八十五
昭和十九年度	百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第二十四條ノ規定ニ準ジ全大都市ニ對シテ之ヲ再分與ス

第六十四條　第六十條及前二條ノ舊稅額ハ昭和十三年度ニ於ケル市稅額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減ジタルモノトス

第六十條及前二條ノ新稅額並ニ前項ノ市稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第六十五條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ都市配付稅ニハ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ノ外ニ地方稅收入ノ激變ヲ緩和スル爲第四種配付額ヲ設ク

昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額、第三種配付額及第四種配付額ハ都市配付稅總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額トス

	第一種配付額	第二種配付額	第三種配付額	第四種配付額
昭和十五年度	百分ノ三十二・五	百分ノ三十二・五	百分ノ五	百分ノ三十
昭和十六年度	百分ノ三十五	百分ノ三十五	百分ノ五	百分ノ二十五
昭和十七年度	百分ノ三十七・五	百分ノ三十七・五	百分ノ五	百分ノ二十

昭和十八年度　百分ノ四十　百分ノ四十　百分ノ五　百分ノ十五
昭和十九年度　百分ノ四十二・五　百分ノ四十二・五　百分ノ五　百分ノ十

第四種配付額

第六十六條　都市配付稅中第四種配付額ハ新稅額ガ舊稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ分與ス

都市配付稅中第四種配付額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第六十七條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ第三十二條第一項中第二種配付額トアルハ第二種配付額及第四種配付額トシ同條第二項中第二十九條及第三十條トアルハ第二十九條、第三十條及第六十六條第一項トス

第六十八條　昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限リ都市配付稅額（第三種配付額ヲ除ク）及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ命令ヲ以テ定ムル率ヲ乘ジタル額ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ都市配付稅（第三種配付額ヲ除ク）ノ額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス（昭和十七年法律第六十一號改正）

第六十九條　前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ都市配付稅額（第三種配付額ヲ除ク）及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度　百分ノ百
昭和十六年度　百分ノ九十五
昭和十七年度　百分ノ九十
昭和十八年度　百分ノ八十五
昭和十九年度　百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第三種配付額ニ之ヲ加フ

第七十條　第六十六條及前二條ノ舊稅額ハ昭和十三年度ニ於ケル市稅額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減ジタルモノトス

第六十六條及前二條ノ新稅額並ニ前項ノ市稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第一項ノ市稅額中戶數割及之ニ代ル家屋稅附加稅ノ額ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　第六十五條乃至前條ノ規定ハ町村配付稅ニ付之ヲ準用ス

第七十二條　昭和十五年度乃至昭和十七年度ニ限リ第十一條第一項中前年度初日トアルハ當該年度初日トス（昭和十七年法律第六十一號改正）

第七十三條　昭和十五年度乃至昭和十八年度ニ於ケル國稅附加稅額ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十四條　昭和十五年度乃至昭和十七年度ニ限リ配付稅ノ交付ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得（昭和十七年法律第六十一號改正）

昭和十五年度乃至昭和十七年度ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ配付稅ハ分與額ノ決定前ニ其ノ一部ヲ交付スルコトヲ得（同上）

（內務大藏省令第二號）

附　則（昭和十六年法律第十二號小學校令ノ改正ニ伴フ俸給法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律）

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年法律第三十八號）

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年法律第八十八號酒稅等ノ增徵等ニ關スル法律）

第一條　本法ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十七年法律第六十一號）

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十八年法律第二號遊興飲食稅法中改正法律）

本法ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十八年法律第八十九號東京都制）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年勅令第五百三號ヲ以テ昭和十八年七月一日ヨリ施行）

附　則（昭和十九年法律第七號所得稅法外二十九法律中改正法律）

本法ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十年法律第十七號地方稅法及地方分與稅法中改正法律）

本法ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ規定ハ昭和二十年度分ヨリ之ヲ適用ス

稅務代理士

○稅務代理士法（昭和十七年二月二十三日法律第四十六號）

業務ノ範圍

第一條　稅務代理士ハ所得稅、法人稅、營業稅其ノ他命令ヲ以テ定ムル租稅ニ關シ他人ノ委囑ニ依リ稅務官廳ニ提出スベキ書類ヲ作成シ又ハ審査ノ請求、訴願ノ提起其ノ他ノ事項（行政訴訟ヲ除ク）ニ付代理ヲ爲シ若ハ相談ニ應ズルヲ業トス

〔施規〕一

資格要件

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ稅務代理士タル資格ヲ有ス

一　辯護士

二　計理士

三　命令ヲ以テ定ムル官廳ニ於テ高等官又ハ判任官ノ職ニ在リテ三年以上國稅ノ事務ニ從事シタル者但シ其ノ職ヲ退キタル後一年ヲ經ザル者ハ此ノ限ニ在ラズ

四　前各號ニ揭グル者ノ外租稅又ハ會計ニ關シ學識經驗ヲ有スル者

〔施規〕二

缺格條項

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ稅務代理士タル資格ヲ有セズ

一　無能力者

二　破產者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三　國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經ザル者

四　六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受タルコトナキニ至ル迄ノ者
六　國稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セントスル罪ヲ犯シ罰金又ハ科料ノ刑ニ處セラレ其ノ裁判確定ノ後五年ヲ經ザル者
七　懲戒ノ處分ニ因リ免官又ハ免職セラレタル後二年ヲ經ザル者
八　第五條第四號ノ規定ニ依リ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ許可ノ取消アリタル後二年ヲ經ザル者
九　第二十一條、第二十二條、第二十三條第三號、第二十四條又ハ第二十五條ノ罪ヲ犯シ懲役又ハ罰金ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後五年ヲ經ザル者

許可申請　第四條　稅務代理士タラントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

許可處分　主務大臣前項ノ許可ニ關スル處分ヲ爲サントスルトキハ稅務代理士銓衡委員會ニ諮ベシ

銓衡委員會　稅務代理士銓衡委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔施規〕三・四

許可ノ効力ノ喪失　第五條　稅務代理士左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條第一項ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一　第一條ニ規定スル業務（以下稅務代理業ト稱ス）ヲ廢止シタルトキ

二　辯護士又ハ計理士ナル場合ニ於テ辯護士名簿又ハ計理士登錄簿ノ登錄ノ取消又ハ抹消アリタルトキ

三　第三條第一號乃至第六號又ハ第九號ニ該當スルニ至リタルトキ

四　第十四條ノ規定ニ依リ退會セシメラレタルトキ

〔施規〕一六

名稱侵犯ノ禁止　第六條　第四條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ稅務代理士其ノ他之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

事務所設置ノ義務　第七條　稅務代理士ハ命令ノ定ムル所ニ依リ稅務代理業ニ關シ事務所ヲ設クベシ

〔施規〕五・六・七・八・九・一一・一二・一三・一四・一五

帳簿作成　第八條　稅務代理士ハ命令ノ定ムル所ニ依リ稅務代理業ニ關スル帳簿ヲ作成シ之ニ必要ナル事項ヲ記載スベシ

〔施規〕一〇

脫稅相談ノ禁止報酬ニ關スル規定　第九條　稅務代理士ハ國稅ノ逋脫ニ付指示ヲ爲シ、相談ニ應ジ其ノ他之ニ類似スル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條　稅務代理業ニ關シ稅務代理士ノ受クベキ報酬ハ所屬稅務代理士會ノ會則ノ定ムル所ニ依ル稅務代理士ハ前項ノ會則ニ定ムルモノヲ除クノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ稅務代理業ニ關シ報酬ヲ受クルコトヲ得ズ

〔施規〕九

稅務代理士會ノ設立　第十一條　稅務代理士ハ財務局ノ管轄區域毎ニ稅務代理士會ヲ設立スベシ但シ命令ヲ以テ定ムル市ニ在リテハ市ノ區域毎ニ別ニ之ヲ設立スベシ

稅務代理士會ヲ設立セントスルトキハ會則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

〔施規〕一七・一八・一九・二二

稅務代理士會ノ成立　第十二條　稅務代理士會ハ前條第二項ノ認可アリタルトキ成立ス

稅務代理士會ノ法人トス

稅務代理士會ハ稅務代理士ノ品位ノ保持及稅務代理業ノ改善進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス

〔施規〕二〇・二一

稅務代理士會ノ區域內ニ事務所ヲ有スル稅務代理士ハ其ノ稅務代理士會ノ會員トス

稅務代理士會ノ會員　第十三條　稅務代理士會ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ稅務代理士ノ品位ヲ失墜シ若ハ失墜スル虞アル會員又ハ稅務代理士會ノ會則ニ違反シ若ハ違反スル虞アル會員ヲ退會セシムルコトヲ得

〔施規〕三五

稅務代理士會ノ組織　第十四條　稅務代理士會ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム、

帳簿書類ノ檢査　第十五條　前四條ニ規定スルモノヲ除クノ外稅務代理士會ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム、

〔施規〕二三・二四・二五・二六・二七・二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三六

第十六條　主務大臣ハ監督上必要アリト認ムルトキハ稅務代理士若ハ稅務代理士會ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

〔施規〕三七・三九

會則變更命令　第十七條　主務大臣ハ稅務代理士會ノ目的達成上必要アリト認ムルトキハ稅務代理士會ニ對シ會則ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

〔施規〕三六・三八

許可ノ取消及稅務代理業ノ停止　第十八條　稅務代理士本法ニ基キテ發スル命令若ハ稅務代理士會ノ會則ニ違反シタルトキ又ハ稅務代理士ノ品位ヲ失墜スベキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ一年以內稅務代理業ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

〔施規〕一六

稅務代理士會聯合會ノ設立　第十九條　稅務代理士會ハ共同ノ目的ヲ達スル爲會則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ケ稅務代理士會聯合會ヲ設立スルコトヲ得

〔施規〕二一

主務大臣ノ職權ノ委任　第二十條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル職權ノ一部ヲ財務局長又ハ稅務署長ニ委任スルコトヲ得

〔施規〕三七・三九

無許可營業ノ罰　第二十一條　第四條第一項ノ許可ヲ受ケズシテ稅務代理業ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條ノ規定ニ依ル稅務代理業ノ停止期間內稅務代理業ヲ行ヒタル者ノ罰亦同ジ

名稱侵犯ノ罰　第二十二條　第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

事務所設置違反、帳簿記載違反、不當報酬ノ罰　第二十三條　稅務代理士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第七條ノ規定ニ依ル事務所ヲ設ケザルトキ

二　第八條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタルトキ

三　第十條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

檢査妨害等ニ關スル罰　四　第十六條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

脫稅相談禁止違反ノ罰　第二十四條　稅務代理士第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

賄賂收受ノ罰　第二十五條　稅務代理士又ハ稅務代理士タリシ者稅務代理業ニ關シ取扱ヒタル事項ニ付知得タル秘密ヲ故ナク漏洩シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

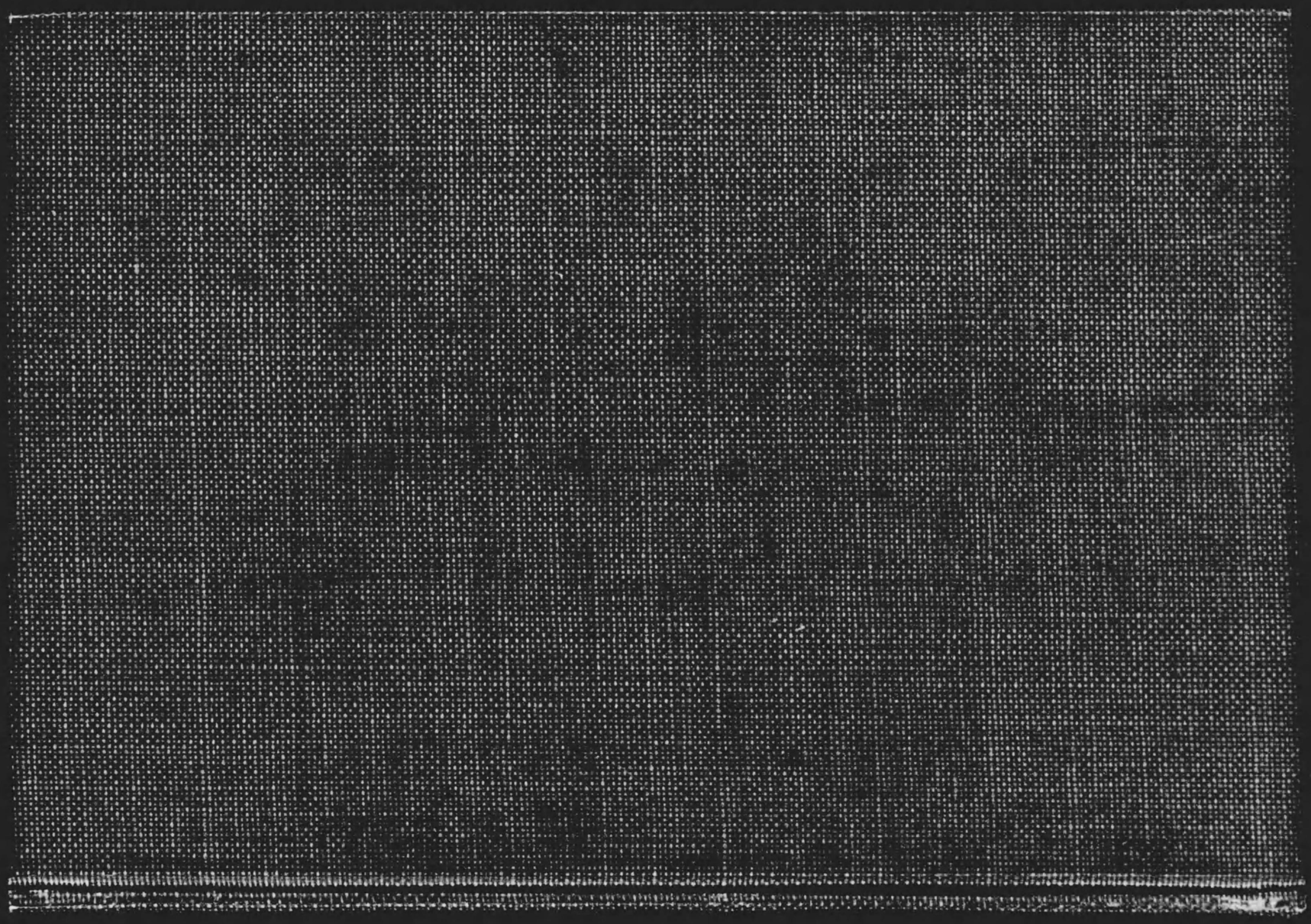
業務ノ罰　第二十六條　稅務代理士ハ其ノ使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ稅務代理士ノ業務ニ關シ第二十三條第二號若ハ第三號又ハ第二十四條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テハ懲役刑ヲ科スルコトヲ得ズ

附　則

施行期日　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

經過的規定　第二條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ稅務代理業ヲ行フ者ガ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ二月以內ニ第四條第一項ノ許可ノ申請ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

本法施行ノ際現ニ稅務代理業ヲ行フ者ハ本法施行ノ日ヨリ四月間ヲ限リ第四條第一項ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ許可ヲ受クズシテ引續キ稅務代理業ヲ行フコトヲ得

第十條ノ規定ハ稅務代理士會成立スルニ至ル迄ハ之ヲ適用セズ